



⑥_ かつらを被った状態で化粧を再調整する。出演者の顔をよく見て映える化粧を施す



2017「源義経公東下り行列」スケジュール

- 10:00~ 藤原秀衡公出迎行列
 - 12:40~ 義経公ねぎらいの場再現
 - 13:30~ 源義経公東下り行列
 - 15:20~ 金色堂奉拝
-
- 9:40~ 平泉小マーチングバンド演奏
 - 10:30~ 平泉中吹奏楽部演奏
 - 13:15~ 長島小合奏団演奏

多くの人が支える時代行列
化粧や衣装の担当スタッフに話を聞くと「毎年やっているが、1年に1回のことなのでどうしても緊張してしまう」と話す。しかしその腕前は確かなもので、衣装を着て、化粧を施された出演者たちは自分の変身した姿に驚き、思わず笑みがこぼれる。自分のやってきた仕事が報われる瞬間だ。裏方スタッフはそれぞれの仕事にプライドとこだわりを持って取り組んでいる。観客は見るべきでない、行列が始まる前の舞台裏。そこには熱い情熱を持って仕事に取り組む人たちがいる。裏方スタッフの活躍なくして豪華絢爛な時代行列はありえない。

Interview

行列衣装の手伝いはとても勉強になる



あさだ りえ 朝田 理恵さん (12区)
衣装担当スタッフ

着付けの師範の資格を持っており、普段は子どもたちの入学式や卒業式などの時に着付けをしています。昨年からは行列衣装の手伝いを始めましたが、とても勉強になります。衣装が着くずれせず、きつくないように気を付けています。

Interview

20年以上前から着付けの手伝いをしている



あべ よしお 阿部 芳男さん (11区)
源義経公東下り保存会 装束部員

京都の衣装業者から着付け方法を学び、20年以上前から鎧武者などの着付けの手伝いをしています。行列の道中は長いので、歩いている途中で衣装や草履のひもが緩まないように結び方やきつさなどに気を付けています。

魅力的な行列をつくる
源義経公東下り行列は出演者とともに多くの裏方スタッフの協力により開催されており、裏方スタッフの仕事内容は化粧や着付けなど多岐にわたる。出演者、裏方スタッフを含め行列に関わる人々には「観客に喜ばれる魅力的な行列をつくる」という確かな思いがそこにはある。源義経公東下り行列の当日となる5月3日午前6時45分、多くの鎧兜や衣装が並べられた平泉町役場2階会議室に源義経公東下り保存会の会員や化粧・衣装担当スタッフが集合。各担当リーダーの指示のもと、当日の流れなどについて確認する。

第3章 情熱 行列を支える舞台裏

源義経公東下り行列を開催するためには、出演者だけでなく、多くの裏方スタッフの協力が必要となる。華やかな時代行列で観客を魅了する表舞台がある一方で、もう一つのドラマが繰り広げられている舞台裏。化粧や着付けなど、行列を支える裏方スタッフたちの仕事に密着した。



出演者の着付けを手伝う源義経公東下り保存会の会員

午前7時になると牛飼童子役の子どもや侍女役の中高生、鎧武者役の男性陣など出演者たちが続々と集まってくる。そしてここから裏方スタッフの時間との勝負が始まる。藤原秀衡公出迎行列が午前10時に出発するため、出演者たちは午前9時15分にはバスに乗り、中尊寺第一駐車場に向かう。つまり2時間15分の間に、出迎行列に出演する総勢74人の衣装の着付け、化粧、かつらの装着などを施さなくてはならない。裏方スタッフには昨年からはじめて人もいれば、長い人では30年以上前から手伝っている人もいる。互いに協力し合いながら、出演者たちを平安時代の人へ変身させていく。

Interview

その人に合わせた映える化粧を心掛けている



ちば いちこ 千葉 一子さん (4区)
化粧担当スタッフ

普段は美容関係の仕事をしており、行列の化粧の手伝いを始めて10年以上になります。人それぞれに顔の個性があるので、その人に合わせた映える化粧をするように心掛けています。またかつらを被ることで、顔の雰囲気も変わるため手直しも必要。全員の化粧が無事終わるとほっとします。



牛飼童子役の化粧の様子。平安時代を意識した化粧を施すため、牛飼童子役の場合はぼてっとした眉を描くなど、行列の役によってさまざまな化粧のポイントがある